

コイノニア



8月号は、「夏休み特別号」ということで、昨年に引き続き“生徒たちの声”を紹介します。「隣人を自分のように愛しなさい。」と「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」という聖句について、3年生のみなさんに“今”、心に感じていることを表現してもらいました。

「隣人を自分のように愛しなさい。」

・入学して以来、何度も耳にしていた「隣人を自分のように愛しなさい」という聖句を、今学期の授業や礼拝で理解することができました。自分への利益や見返りを求めない「隣人への愛」は、実行は難しいのでは、と思っていましたが、生徒会活動等で行ったペットボトルキャップ回収やシトラスリボンプロジェクトが、「隣人への愛」へ繋がっていることに気が付き、晴れやかな気持ちになりました。

・隣人を自分のように愛することを日々意識して生活していると、自分を支えてくれている人がたくさんいることに気がつき、感謝の気持ちを伝えることができたり、友達が悩んでいたらすぐ気づくことができると思いました。

・私は隣人を自分のように愛するのはすごく難しいと思っていました。もし、自分が愛していても、相手から嫌われていたら、などマイナス面を考えていたからです。ですが、最近、相手にたとえ嫌われていたとしても愛するという事に悪い意味はないと思い始めました。自分が誰かを愛する事によって、1人でも多くの人を助けられたらいいなと思います。

・実習では利用者さんのことを考えて行動しています。利用者さんが困っていたときに声をかけて「ありがとう」と言われたときはとても嬉しかったです。小さなことでしたが感謝されると嬉しくなります。日常生活の中でも小さな気遣いができるように隣人を大切にすることを心がけたいです。

・私は調理師を目指しているのですが、そこから考えると、隣人とは職場の仲間はもちろんのこと、「お客様」も含まれるのかなと思いました。料理は1人でもできるけど、「お客様」に提供するとなれば、自分だけが満足する料理を作るだけではだめで、「お客様」を自分のことのように考えて、その人に合った料理を出すことが大切だと思いました。

・隣人を愛しなさいということは、あまり好きでない人も愛さなければならないのかとすごく疑問に思いました。ですが、今考えると自分自身が人に優しくすることでその人の心も変えることができるのではないかなと思うようになりました。なので誰にでも親切に大人な対応ができるように自分を磨きたいです。

・この聖句を聞いて、まずは自分を好きにならないと意味がないなと思いました。私は自分に自信がないけど、この聖句を聞いて、「まずは自分を好きになろう。」と思えました。

・自分の家族や友人だけでなく、近くにいる人も自分のように大切にしようと思います。インターンシップに行き、皆さんにとっても優しく丁寧に一から説明していただきました。忙しいにもかかわらず笑顔で対応してくださったので、私も自分の近くにいる隣人に優しくしていこうと改めて思いました。誰にでも優しく対応できる人になりたいです。



月の予定

23日(月) 第11回西日本同信伝道会

生徒のみなさんに直接関係する行事ではありませんが、本校の礼拝堂をメイン会場にして同志社大学神学部を卒業した牧師たちのオンライン研修会が開催されます。開会礼拝では本校チャプレンの辻村が説教を担当し、聖歌隊・トーンチャイム部と宗教委員の生徒たちが奏楽や讃美・司会の奉仕をします。

また、同志社大学神学部教授の小原克博先生が来校され、主題講演をしていただきます。同志社は本校の初代校長・西村清雄が学んだ学校で、夜学校時代には多くの生徒が同志社へ進学していました。もちろんチャプレンの辻村も同志社大学神学部・神学研究科で学び“同志社スピリット”を引き継ぐ1人です。(因みに、大学院時代には小原先生のゼミを取って学んでいました。)

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」

・「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」という聖句は僕は好きです。この聖句のように自分の気持ちに全力で共感してくれる人がいればいるほどとても心強いと思いました。なので僕もそんな人になれるようがんばりたいです。

・私はこの「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」という聖句が好きです。その理由は、嬉しい時にも悲しい時にも寄り添ってくれる人が居るんだなと思える聖句だからです。なので私も人が喜んでいいる時には一緒に喜び、泣いている時には一緒に泣けるような、寄り添う心を大切にしていきたいと思いました。

・感情を半分こしあっていくという様にこの聖句は私には思えました。1人で背負わなくていいんだと、助けられてもいいんだと、読んでいいる方も救われる聖句だと思います。私もこの聖句のように誰かが喜んでいいる時、私も一緒に喜んで、泣いている時にも一緒に泣いて、その人に少しでも楽をさせてあげられるような、そんな人になっていきたいと思えました。

・一緒に喜び、一緒に悲しむことができる人がいるのはとても心強いと思います。介護をするうえでも、利用者さんの気持ちに寄り添うことを大切にしています。一緒に感情を共有することで自分のことを想ってくれていると感じます。人と関わるうえで大切にしたい聖句です。

・相手の思いに寄り添う、共感するという事は福祉の現場で、利用者さんとコミュニケーションを行う上で、大事になってくる部分なのですが、それだけでなく、私たちが日々生活していく上でも、根本的な部分になるので重要なことなんだと改めて思いました。

・私は、喜ぶ人と共に喜ぶということ、インターンシップを通して実際に経験しました。来てくださるお客様が笑顔になってくれると私も嬉しい気持ちになり、自然と笑顔になれます。自分が笑顔だと相手も笑顔になり、自分が笑顔じゃないと相手も嫌な気持ちになります。人は自然と人の気持ちに寄り添えるのだとインターンシップを通して学びました。

・「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」という聖句が一番好きです。自分のことだけを考えるのではなく、周りのことも考えて行動をして、身の周りで喜んでいいる人がいたら一緒に喜び、悲しんでいる人がいたら側にいてあげて、他の人の気持ちを考えてあげられるような広い心を持った人になりたいと思いました。

・急性期の病院では、1日何人も患者さんが、入院・退院・手術をしています。その中でも看護師さんは1人1人の患者さんを看護して、入院や手術の不安を聞き、共感して、退院する際や検査結果の内容に喜んでいたり、患者さんの気持ちを否定せずに受け止めていました。相手を大切にキリスト教と看護の深いつながりを感じる聖句だと思いました。

